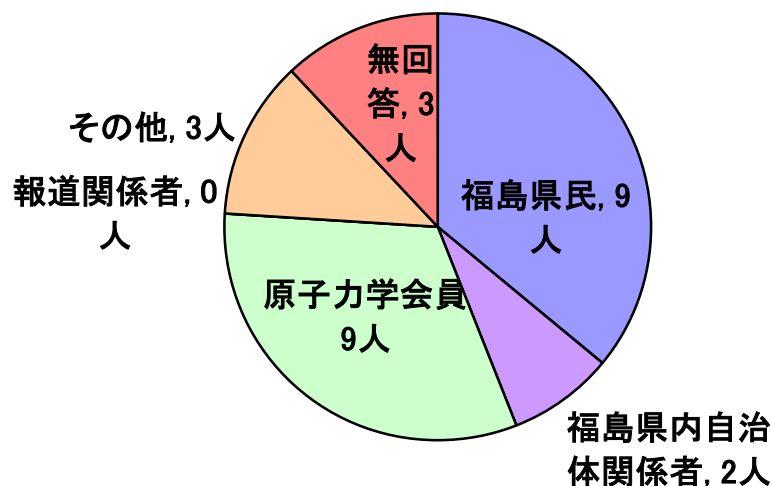


日本原子力学会シンポジウム
「除染の進捗・放射線と健康影響について」
2015年8月1日（土）13：30～16：30

1. アンケート回収状況	1
2. 今回のシンポジウムについて	2
2. 1 企画について	2
2. 2 講演内容、分かりやすさについて	3
(1)放射線の健康影響	3
(2)除染の進捗状況について	5
(3)除染で取り除いた土壌等の中間貯槽と輸送について	6
(4)郡山市の除染と除去土壌等の輸送について	7
(5)福島第一原子力発電所の廃炉に向けた進捗報告	7
2. 3 今後の企画について	9
2. 4 その他	9
附録 アンケート集計総括表	10

1. アンケート回収状況

- (1) アンケート回収数 25名
- (2) 内、有効回答数 25名
- (3) アンケート回答者内訳

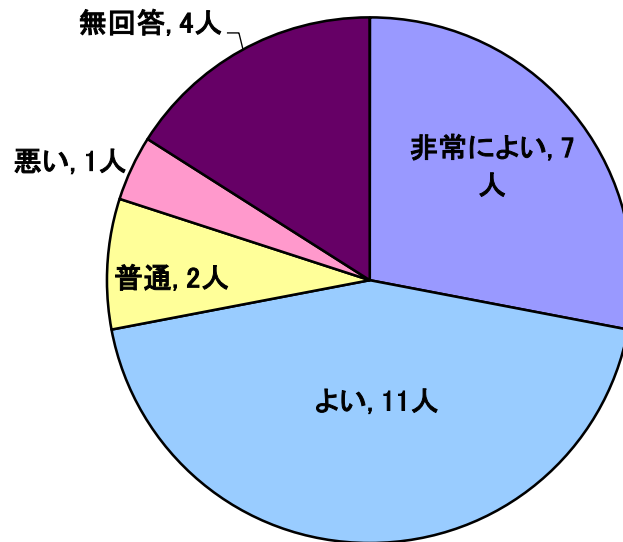


アンケートに回答いただいた方の人数構成

参加者	人数	割合
福島県民	9人	36.0%
福島県内自治体関係者	2人	8.0%
原子力学会員	9人	32.0%
報道関係者	0人	0.0%
その他	3人	12.0%
無回答	3人	12.0%
計	25人	100%

2. 今回のシンポジウムについて

2. 1 企画について



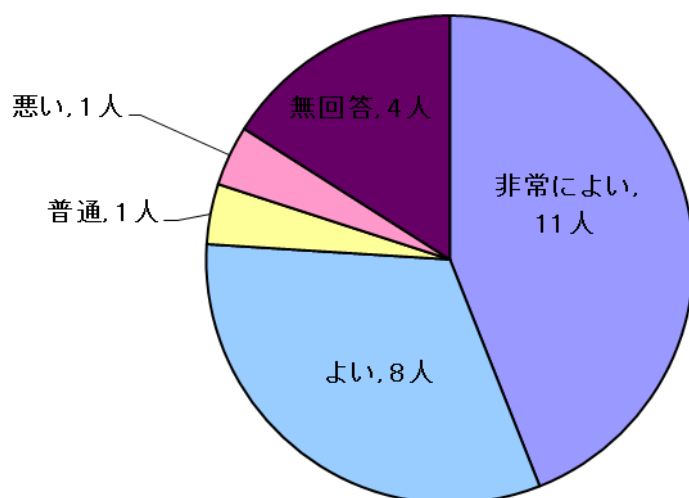
今回の企画内容

(頂いたコメントは原文をほぼ忠実に記載しています)

- 1) 県民との交流・支援をさらにお願ひ致します
質問の時間をもう少しとっていただければと、
- 2) 是非再度郡山市で開催して下さい。
- 3) 非常に有意義なものでありました。
- 4) シンポジウム開催自治体からの発表があったのは良いと思いました。
- 5) 宇野先生は免疫の観点から気分をラクにもっている方が大事といわれました。5年前の山下俊一先生の「大丈夫」に似ています。本当にそれでいいのか、一方的ではわかりません。宇野先生が批判なさった「物理学のセンセイ」とか、北海道病院の西尾正道先生とかと、パネルディスカッションなどして、一般市民のギモンを論じあってほしいものです。
- 6) 郡山市からの輸送開始の時期に合ったタイミングのよい企画です。
- 7) 一般の方の意見に対する回答は難しいですね。学会の主旨と方向性が変わってくることがあると思いますので。
- 8) 質疑応答の時間を増やしてほしい
- 9) (良く分かりやすいのに PR 不足) 欄外記載
- 10) 原子力は不必要と考えている者ですので、基本的な考え方が折り合わないものと思います。予めお断りしておきます。今回の企画はどの程度県民に周知・広報されたものでしょうか。参加者が非常に少なく残念です。

2. 2 講演内容、分かりやすさについて

(1) 低線量放射線を越えて、放射線の健康影響

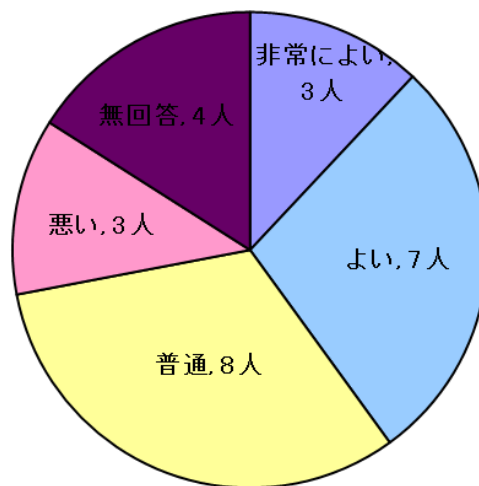


①「低線量放射線を越えて、放射線の健康影響」

- 1) 多くの人々の努力があって、県民の多くが低線量の放射線に対してネガティブな考え方しかできない状況から脱していると思います。その一方、県外では変わらずネガティブなままであることが風評被害や避難者の未帰還状況を継続していると思います。今回の講話は今後県民のみならず県外・首都圏で多く聞いていただきたい。
- 2) 活性酸素とか免疫細胞とか科学的に考えることについて、大変分かり易い話でありました。
- 3) 専門家の中での意見の違いが専門分野からきていたというのがわかって良かった。
- 4) ・ガン以外の身体のいたみ、不調がチェルノブイリ 29 年の現在でも子どもたちにでている事実は把握しておいででしょうか。
 - ・許容（年シーベルト）が 1 ミリ Sv/年からいっきに 20mS/h に上げました。それを受けとめたらいいでしょうか？
- 5) ・極端な表現があった（資料中）
 - ・中立的な表現にとどめるべきかと感じました。”
- 6) 免疫学の観点からリスクを総合的にとらえており、よく分かった。是非、各専門分野間の相互理解を進めてください。
- 7) 先生の主張は理解できます。
- 8) 低被ばくの健康障害、特に免疫力向上を図る方法が理解できた。ただ、福島市の空間線量は 0.2 ほどあり、東京の 0.05 に比べれば 4 倍でその違いが差別へとつながっていると考えます。福島は安全、問題なしと PR してほしい。
- 9) 分かりやすい。
- 10) チェルノブイリとどう違う「型」なのか？”科学的に”と言いながら全く科学的ではない。原発事故の影響を否定しながら、必至に免疫力 UP を訴えているのは何故か？全く矛盾しているとしか言いようがない。第 2 のチェルノブイリはならない！のではなくしたくない！のでは？
- 11) 健康影響についてわかりやすく説明して頂けた。
 - 先生のお考えはしばられた感じを受けず一般的に妥当な話しと受けとめました。
- 12) 放射線以外の影響も大変わかりやすく、プラクティカルな内容であった。
 - 高年令の自分には参考になった面もある。

- 13) 免疫に及ぼす放射線とそれ以外の要因について比較され、分かり易かった。
- 14) 論理と感情を織りまぜた判断を以ってのご説明は、きき手の正しい判断を誤らせるおそれがあると思います。
- 家族の分断とここで住むことを天びんにかけるような主張も正しいとは思いません。私たちの責任ではないことに起因している様で。
- 15) ・物理系の人が放射線リスクについて大げさに言うという指摘にはおどろいた。自分も物理系だがそんな人にあつたことはないし、原子力学会員ならすべて物理系では？物理系でない人でそういうひとならいると思います。
- ・喫煙と放射線被ばくのリスクが横ならびで比較できないのは前者が自分の選択で摂取しているからだと思います。活性酸素のことを知っているからといって吸いたい人は吸うのである一方放射線はさけられないのが問題。
 - ・リスクコミュニケーションが失敗したのは、事故初期に干す破線のデータがかくされたり、過小評価された情報発信によって専門家の信頼が低下したからであり、それに対して被災者が科学的に判断しないことが原因とするのは責任転嫁と受けとられてもしかたがないと思います。いくら線量が低くてももともと無用な被ばくをさせられた人にとっては「あきらめる」以外に納得する法→（免疫の知識はその点では有効です。）はないと思います。一般に被ばくしてない立場からリスクミを論じるには注意が要ると思います。

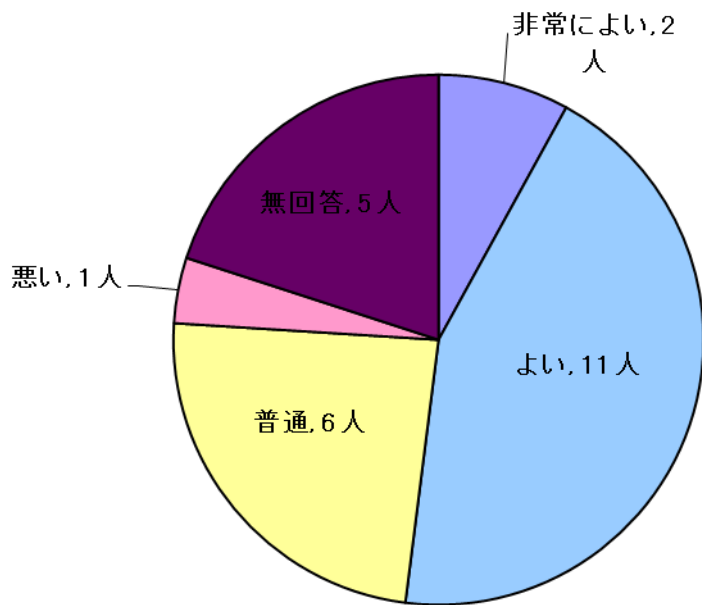
(2) 除染の進捗状況



②「除染の進捗状況について

- 1) 避難指示区域の話が中心でしたが、郡山市や福島市での説明であれば、もう少しその当たりのこともデータ的に示して説明をしていただきたいと思います。
- 2) 2011 年、最も除染が必要だった自宅の周辺は、玄関前の側溝の流水が集まるマスで、線量計の針が振り切れた。市役所にかけ合ったが道路維持課が管轄だと分かったが、あれから 4 年経て、昨日ようやく除染された。これが官庁のタテ割り行政というものであることを実感した。
- 3) 配布資料の評価、改善についても説明が欲しかった。
- 4) 質問に対して、回答になっていませんでした。残念です。
- 5) 環境省は事故当初、除染の目標を、 $0.23 \mu\text{S}/\text{h}$ と被ばく民に対するパンフレット「除染の話し」に明記されましたが、今や年間 $1\text{mS}/\text{h}$ を目標とするとし、 $0.23 \mu\text{S}/\text{h}$ の目標がなくなったかのような扱いは問題である。
- 6) 簡単
- 7) 実施すべきはリスクコミュニケーションではなく、リスクそのものである。住民避難と移住を望む人たちには、きちんと保障すべきです。
データは、説明されているようにオープンにされていない。
- 8) 国の除染計画について、もう少し詳しく時間を掛けて説明していただきたい
- 9) 正確なデータをタイムリーに報告するのは大変難しいと思います。
誠にご苦勞様としかコメントしようがありません。
- 10) 最新の情報を紹介されていたのは良かった。
- 11) ・プレゼン技術が足りない。
 - ・QA の受け答えも×。
 - ・資料が細かすぎ。(読む意欲をなくす)
 - ・せっかくのシンポ逆効果にも。
- 12) 除染すればよいということではなく、いくらまで下げたら帰還できるのか基準を設定すべきです。(例えば原子力規制委員長田中俊一氏によれば $5\text{mSv}/\text{y}$) 生まれてから死ぬまで住む場所が $20\text{mSv}/\text{y}$ 以下なら合法というのが今の基準であり、到底受け入れられるものではありません。決めるのは環境省だと思いますが、できないなら県が決めるべきでしょう。ただし、住民参加は絶対条件です。

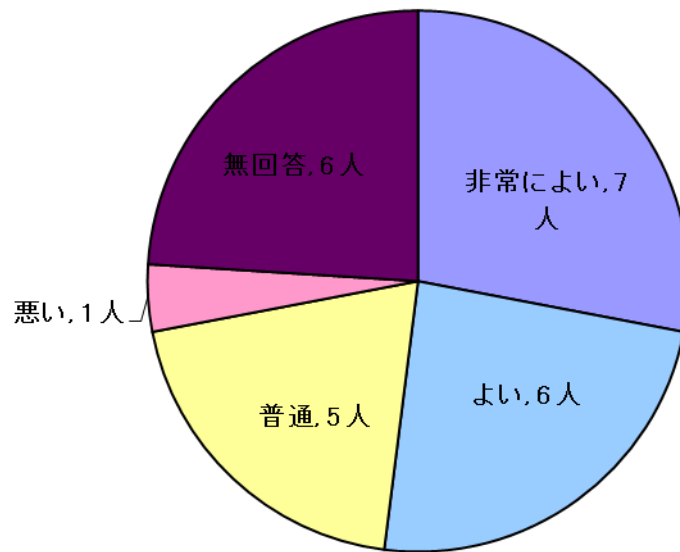
(3) 除染で取り除いた土壌等の中間貯蔵と輸送について



③「除染で取り除いた土壌等の中間貯蔵と輸送について」

- 1) 仮設焼却施設やフクシマエコテックの話について、もっと詳しい話をしていただきかったです。
- 2) 現状を率直にお話していたと思う。
- 3) 大量輸送になるが、コスト（厳重管理）との両立についても話して欲しかった。
- 4) 中間貯蔵の現状については問題なしです。質問事項について、回答になっていないのでは？質問者は農林業汚染廃棄物下水汚泥についての処分についてきいていたが、回答は、除染ででた廃棄物についての回答であった。除染以外の廃棄物の処分について回答すべきであったと思う。質問者があやまって認識する可能性ある。お互い、かみあってなかった。
- 5) 30年以内に必ず福島県外で最終処分を確実に実施してほしい。
- 6) わかりやすく話しもはっきりしておりよいと思う。
- 7) ポイントを要領良く説明されていたと思います。
- 8) 資料が細かい。
- 9) 中間貯蔵に至るまでのお話、気の遠くなるようでごくろうさまです。30年などあつという間だと思います。私の庭に埋めた表土類は低線量でもあり、運び出さなくてもよいと思っています。中間貯蔵の場所となる地域の方には本当に申し訳ないと思っています。

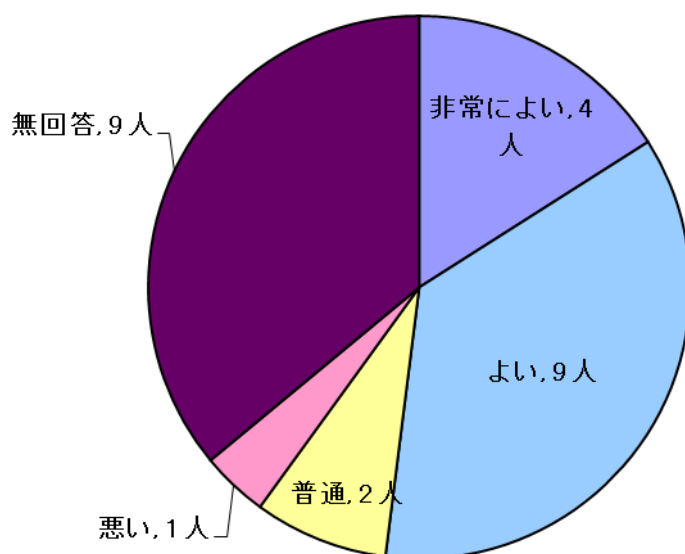
(4) 郡山市の除染と除去土壌等の輸送について



④「郡山市の除染と除去土壌等の輸送について」

- 1) 先の質問に市内のホットスポットのことが出されていたので、その点についても触れていただけたらと思いました。
- 2) 時系列的な説明により、郡山市の取り組みがよく分かりました。
- 3) 郡山市の現状がわかって良かった。
- 4) 郡山市の住宅のうめこんだ土の掘りおこし時期はいつ頃だろうか。
- 5) ホットスポットの存在を市民の立場で深刻に受けとめ対処してほしい。
- 6) 現場の詳細な状況がよく分かった。
- 7) わかりやすい説明であった。
- 8) 除染の効果把握の一つとして 0.23 以下となった、件数を考慮すべき、確実に除染が実施されればすべて 0.23 以下であり、ホットスポットなどありえない！
- 9) 着実に進捗されている状況がよく分かりました。
- 10) すべてに満足をしているわけではありませんが、行政の責任者の方のていねいなご説明と熱意がわかりました。

(5) 福島第一原子力発電所の廃炉に向けた進捗報告



⑤福島第一原子力発電所の廃炉に向けた進捗報告」

- 1) 専門的な話が飛ばし飛ばしの説明なので、よく分かりませんでした。
- 2) 毎回シンポジウムで説明していただいているので、ありがたい。引き続き安全に作業を続けてほしい。県民に安心を！
- 3) 技術的に難しいことは分かるが、デブリ燃料がコンクリートを破っているのではないかと予想する人が多い中で、この不安は地下水の汚染などから高まっている。
- 4) ・デブリ燃料の取り出しは可能なのか。ある物理学者がいうように石棺にて覆うという方策を実施を前提に考えるべきではないか？
・デブリ燃料の他に原発構内の汚染ガレキの処理法はどうするのか、中間貯蔵地には移送できないだろうから。
- 5) 市民向けには難しい内容だった。
- 6) 同業者です。日々お疲れ様です。大変好感の持てる説明でした。
- 7) 質問に対する回答がよかった。東電に責任あるにせよ、今後がんばってもらわないとなので
- 8) 資料数に対して説明時間が短くて気の毒でした。資料は後で読みます。
- 9) 廃炉工程を 30～40 年としているが、これまでの進捗状況から見て極めて非現実的です。
原子力市民委員会 (ccne) = NGO の提言 (2015/06) では、水冷をやめて空冷にして汚染水をへらすとともに、工程を 100 年以上として作業員のひばく量やコストを下げるよう提言しています。(www.ccne-japan.com) ぜひご検討おねがいします。

2. 3 今後の企画について

(1) 希望する催し、テーマ、講師

- 1) 希望する催し：住民との直接の相談の場
- 2) 講師：宇野先生のような、科学的な話を分かり易くお話いただける方を再度講師として希望します。
- 3) ・トリチウムの処理について
 - ・女性のためのシンポジウム第2弾
 - ・除染等が進んだ福島県について安全評価（学会から見て）
 - ・学会で受けた相談・質問から見えてくる今後の課題
- 4) 福島第一原発の海洋汚染の状況とこれからの対策のあり方
- 5) 同種のシンポジウムの内容を知らせるため、県外でも行なって欲しい。
- 6) ・20代の女性を対象にしたシンポを企画されてはいかがでしょうか。
 - ・一般市民を対象としたシンポを企画されてはいかがでしょうか。
- 7) 復興に向けた各自治体の将来計画

(2) 時期

- 1) 上記5) をできるだけ早く
- 2) 秋頃

2. 4 その他

(日本原子力学会への要望その他、気づいた点)

- 1) 以下をお願いします。
 - ①事故が防げなかった反省と謝罪
 - ②事故原因究明と対策提言
 - ③事故収束の為の技術開発
 - ④環境回復と県民への対策と償い
 - ⑤国の原発・エネルギー政策の統治機構改革提言（国民視点で）
 - ⑥健康被害を防止する為の提言
 - ⑦ムラ社会からの脱却を！！→オープンな社会（学会）へ
何が出来るか具体的・積極的な支援をお願いします。これが償いです！！
県民との交流支援をもっと図るべきです。
- 2) 今回のシンポジウムを今後は郡山市でも定期的に開催していただきたい、また、いわき市でも同様に定期的にお願ひする。一方、開催の告知・PRが不十分であるために、参加者に偏りがあるように見える。一般市民の参加が増えるよう工夫・努力をお願いする。また、すでに書いたように首都圏での一般市民向け活動の拡大をおねがいしたい。
- 3) 事故後から大変お世話様です。今後ともよろしくをお願いします。
- 4) 今回の会場にもリスクを過剰に言い、恐怖を煽る方がおられ、そのような方ばかり質問していました。今後も学会さんの活動により、このような方々も含めて正しい理解を得られるように頑張っていたいただければ嬉しいです。
- 5) 質問が個人（団体？）の関心に非常にかたよっているものがあつた。それだけ事故後の関心が多様化しているのだと思う。またシンポジウム開催にあたり、難しさがあると感じた。
- 6) 質問の時間を十分確保してほしい。
- 7) 学会員の参加が少ないように感じた。関心が薄れていなければよいが。
- 8) 一般の方にもっと分かり易い資料、話し方に配慮が必要。やり方によっては逆に公衆との溝をひろげることも。
- 9) 高度汚染地域への一律の帰還政策（補償する物）はぜひおやめいただくようはたらきかけて下さい。そのまえに 20mSv/y ではない妥当な規準の設定をするべきです。

附録 アンケート集計総括表

	非常によい	よい	普通	悪い	無回答	計
1.(1)企画	7人	11人	2人	1人	4人	25人
	28.0%	44.0%	8.0%	4.0%	16.0%	100%
1.(2)①「低線量放射線を越えて放射線の健康影響」	11人	8人	1人	1人	4人	25人
	44.0%	32.0%	4.0%	4.0%	16.0%	100%
1.(2)②「除染の進捗状況について」	3人	7人	8人	3人	4人	25人
	12.0%	28.0%	32.0%	12.0%	16.0%	100%
1.(2)③「除染で取り除いた土壌等の中間貯蔵と輸送について」	2人	11人	6人	1人	5人	25人
	8.0%	44.0%	24.0%	4.0%	20.0%	100%
1.(2)④「郡山市の除染と除去土壌等の輸送について」	7人	6人	5人	1人	6人	25人
	28.0%	24.0%	20.0%	4.0%	24.0%	100%
1.(2)⑤「福島第一原子力発電所の廃炉に向けた進捗報告」	4人	9人	2人	1人	9人	25人
	16.0%	36.0%	8.0%	4.0%	36.0%	100%